

大阪府立西浦支援学校 平成 27 年度 第 1 回学校協議会 記録

日 時：平成 27 年 6 月 5 日

場 所：大阪府立西浦支援学校 校長室

1 開会

・配布資料の確認

・校長挨拶

学校の経営などへのご意見を含め忌憚なきご意見をお聞きして、進めてまいりたい。

・委員紹介 首席

名 前	所属 職名	備考
カトウ ヨシロウ 加藤 美朗	関西福祉科学大学	会長
スズキ コウジ 鈴木 耕治	羽曳野市立西浦小学校 校長	
ツジモト エイイチ 辻本 榮一	西浦町会 総括区長	
イシモト エツジ 石本 悦二	支援センター はる センター長	
チハラ マサユキ 智原 正行	社会福祉法人 青山会 理事	代理
イナガキ ノリコ 稲垣 範子	大阪府立西浦支援学校 PTA 会長	

・学校案内 教頭

2 報告

① 平成 28 年度 教科書選定について (首席)

・選定経過の概要を説明。

・今後各学部、学年で教科用図書の重複がないように選定を進めていく。

② 平成 27 年度 学校経営計画及び学校評価について (校長)

・めざす学校像として 3 つ、中期目標として 4 つの項目をあげている。

・本年度の取り組み内容の概要を説明。

・教育実践マトリクス、自立活動チェックリストを活用して保護者、関係諸機関との共

通理解を図る。

- ・キャリア教育の充実を図りたい。卒業後を見通してのキャリア教育、店舗や福祉施設等、関係諸機関との連携を進める。
 - ・安全安心のためできるだけ早急に校内の環境を整える。地域の方と互いに声をかけていただけるような関係になれるようにしていく。
 - ・教員の専門性向上、人権、ICT などを含めた研修を行い人材の育成を行う。経験の少ない教員が多い中、メンター制の導入で専門性をできるだけ早く育てる。
 - ・他校と連携し授業を公開していく。
 - ・データ、様式を小中高の見通しを持ったものにし、つながりを意識した指導を進めていく。
 - ・教育実践マトリクスの精選を重ね、将来的には大阪で共通して使えるマトリクスをめざす。
 - ・喫茶室等を活用して職業コースの充実を図りたい。実習等も付近の商店、福祉施設と協力して進める。
 - ・学校経営推進費に申し込み、予算を獲得できた。LED を使った水耕栽培のシステムを8基構築する予定。
 - ・防災マニュアルを活用した訓練を行う。近隣と協力して防災体制の構築。
 - ・支援ボランティア等の活用も進める。
 - ・人権研修、最新福祉事情等の研修を計画的に行い専門性の向上をめざす。
 - ・チーム制にすることで人材育成もかねてフレキシビリティな組織運営を進める。
 - ・公開授業や研究授業を積極的にやっていく。
- 3 協議 本校の「学校経営計画及び学校評価」と「運営方針」について、および学校全体について
- 「教員の体制について」
常勤講師 68 名と非常勤 8 名である。
- 「教科書について」
教科書は、発達の状況によってグループ分けを行い、より細かい設定をしているので種類が多い。
選定は毎年行っている。
- 「児童生徒情報の引継ぎについて」
八尾支援学校、富田林支援学校、堺の特別支援学校などの児童生徒の情報の引継ぎは、書面でのやり取りや出身校の教員とのやり取りで行っている。
- 「アレルギーの対応について」
アレルギーについての対応は、保護者説明会で書類をお渡しして把握している。現在、除去は卵しかできておらず、小学部で卵の除去を 1 名実施している。安全を最優先にしている。

「教育実践マトリクスについて」

将来的には教育実践マトリクスは、保護者とだけではなく地域の小学校や関係諸機関と同じスケールで児童生徒の話ができるようにもしていく。同じスケールで話ができることで保護者も今後の見通しもつきやすい。

「教員の育成について」

経験の少ない教員が増えていることはどの学校でも課題であるが、分掌業務をチーム制にしたり、メンター制を導入している。そのようなシステムがあることがよいことである。

「行事の予定について」

4月だけでも何度か予定が変わっており、年間の行事予定をお配りしたいが難しいのが現状である。

「授業参観週間について」

授業参観週間に地域の小学校の参加や、人事の交流を検討する。

「保護者の方の不安について」

開校に際して保護者の方の不安もあったが、慣れてくることで子どもの様子も変わってきている。学校と保護者の信頼関係を構築していく。

「防災について」

新設校で現在備蓄がないが、全員に1500円でグリコから買う予定である。不足する物品に関してはPTAの予算から出していただく予定になっている。

4 まとめ

今回欠席された方々は福祉との関係の深い方々でもあり、児童生徒も福祉の利用が進んでいるので保護者の方々や地域の方々を含め、今後も連携を続けていく。

閉会